育成 モノづくり人材 Vol.66

福岡県立三池工業高校

発想の原石磨く知財教育

福岡県立三池工業高校の始まりは1908年（明41）。工業界の「志士」を育成する目的で「三井工業学校」が創設され、三池炭鉱や関連企業の実習場となった。50年（昭25）に県立高校となる。65年の全国高等学校野球選手権で原貢監督が率いるチームが初出場初優勝を果たしたことは高校野球ファンの間で現在も伝説として語り継がれている。

モノづくり人材の育成では新たな教育カリキュラムにより産業界のニーズへの対応を目指している。それまで入試時点で5学科に分かれていたが、2017年度から「エネルギー系」「メカトロニクス系」「社会基盤系」の3系統にした。

その狙いを矢野雅伸校長は「生徒の可能性を広げ、基礎習得を意識したもの」と語る。1年次には幅広く工学の基礎を学ぶ。生徒の希望に基づき2年次以降に5学科に分かれ、専門的な技術を習得する。進級の際には面談も力を入れる。その柱にあるのが「知的財産教育」の取り組み。2007年から電気科の課題研究として「特許を目指したものづくり」を実施。生徒らが考えた作品は全国工業高等学校長協会主催の「高校生技術・アイデアコンテスト」に応募し、応募件数は7年連続で全国1位となっている。入賞作品には商品化に結びついたものもある。

13年からは知財教育の取り組みを全学科に広げ、1年生を対象に「知的財産講座」を実施。発明、特許に関する基礎知識を学び、夏休みに発明提案書を作成する。「校内パテントコンテスト」で選ばれた作品は文部科学省などが主催するコンテストに応募する。こうした取り組みから、16年度には全国の高等学校で唯一となる2年連続での「文部科学省科学技術・学術政策局長賞」を受賞した。

「黒いダイヤ」と例えられ、日本の産業発展に貢献した石炭。かつて「炭都」と呼ばれた大牟田で想像力豊かな人材が輝きはじめている。矢野校長は「若さと柔軟性を生かし、伸びしろのある生徒を育てたい」と意気込む。

（西部・高田圭介）

（金曜日に掲載）

矢野校長

【DATA】▷校長＝矢野雅伸氏▷所在地＝福岡県大牟田市▷学科構成＝電気科、電子機械科、情報電子科、工業化学科（全日制）、機械・電気科（定時制）▷生徒数＝548人（全日制）、63人（定時制）▷主要設備＝マシニングセンター、フライス盤、高電圧実験設備、水理実験設備、化学実験プラント、3Dプリンター▷主な進路＝アイシン精機、日産自動車、豊田自動織機、鹿島道路、ブリヂストン、トヨタ自動車九州、西日本鉄道、九電工、三井三池製作所、三井化学など

1年生を対象に実施する知財の学習会

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社